

2017.03.22：次世代育成調査特別委員会 本文

○菅原正和委員 私は奈良市に関して一番感じたことというのは、基本方針に、市民と協働した教育を進める、30万人の市民を先生にという言葉がすごく響いたのですけれども、これってやっぱり地域で子供を育てていくという、その概念がうんと強いのかなと。それで、奈良のことをよく見ていくと、放課後子ども教室の充実をどんどん図っていく目的で、こういうこともやっているのかなという印象を受けました。

それと同時に堺市の場合ですと、皆さんもおっしゃったとおりに、のびのびルームとすくすく教室で、同じようなところが一緒のところで行っているということで、こちらは児童クラブの延長線のことをまず今後訴えていくのかなということで、両極端の対応が二つの都市で見られたと。仙台市では、今後どうやっていくのかなという、ある意味ではヒントを得たのかなということを感じたというのが、まず思ったことです。

○菅原正和委員 私がよく思うのは、この間東四郎丸の有識者の方に聞いたときに、学校との関係をつくる時に、学校に入り込むのは簡単だけれども、学校との関係がなかなかつくれない、非常に難しいということの話もあったし、市内で放課後子ども教室を行っている方などでも学校と連携がうまくいっていないとか、そういう話も聞こえてこないわけではないので、地域で子供を育てていく場合に、学校は学校のあり方があり、地域は地域のあり方で、接点がなかなか見つけられないというのが今の現実だと思うんですね。

その中に子供をぼんと取り入れたときに、子供にどうやってやってあげればいいのかというのがよくわからなくなっているのではないのかなというのがあって、やっぱり中心は子供であって、子供をどうやって育てていくかというのが一番問題だと思うんです。

取り組んでいる事例で出していただいたお母さん方というのは、非常に子供に対してすごく前向きで、子供に何をやらせればいいかということを、明確に自分で目標を立ててやっているというのが非常によかったなど。

ただ、そういうアドバイザーでも、リーダーでも、必ずしもその人と同じような立場の人が、全部が全部そうならいけばいいのですけれども、各施設によってまちまちだということもあり、均一化を図るためにはいろんなそういう人を養成していくのも、まず必要だし、いい事例を学んでいくというのがまず必要なのかなという感じがします。

でも、何を言っても、今大人が自分の子供に対していろんな教育をするときに、昔自分がいろいろできなかったことを押しつけるというのが、よくあるかと思うんですよ。何々をやりたいんだと、こういう人にやりたいと。それって、本当の子供の自主性なのかなというのがいろいろありながら、そういうことを放課後子ども教室とか児童クラブとかで、そういうことをやってしまったのではアウトになってしまうなという感じは受けます。

今後、未来の子供をつくっていくためにはどうしたらいいかということ、もう少し子供をまず真ん中に持って行って、大人がそこでいろいろ色づけしていくのではなくて、子供がどう

したらいいかということ、まず最初に、その視点から追っていくことが必要なのではないかと。そのように思いました。